

## 第115回テーマ

### 国立公園六甲山地区の特色とこれから

#### 第1部：講演

- 国立公園指定の背景と経緯
- 自然公園としての特色
- 六甲山系の環境保全および活用の在り方について

#### 第2部：座談会

実施日：平成25年8月17日（土）  
午前10時～午後3時30分  
場所：六甲山自然保護センター、  
まちっ子の森



講師：戸田 耿介さん プロフィール  
1943年（昭和18）生まれ、69歳、三木市在住。昭和42年東京農工大学農学部林学科卒業、同年厚生省（現環境省）国立公園局入省。昭和46年～兵庫県生活部自然課、観光課勤務。平成4年～兵庫県立人と自然の博物館主任研究員。平成14年京都市みやこエコロジーセンター事業長、平成15年～甲南大学、神戸国際大学非常勤講師ほか。自然環境系のシンポジウムや講演に多数参加。



30年前に植樹した自然保護センター前のケヤキ

#### 48名が午前中の活動に参加

朝の記念碑台は快晴で風が強く24℃と爽やかでした。27名が自然歩道の整備、21名が「散歩道」のモニターを行いました。午後の市民セミナーは52名で大賑わいでした。

#### 30年ぶりに六甲山での活動を見直した戸田さん

今年の2月11日、県立人と自然の博物館で10数年ぶりに戸田 耿介さんにお会いして、講演をお願いしました。30年前には市民セミナーの拠点にしている県立自然保護センターの建設など、六甲山の整備や活用で尽力されています。せっかくなので、六甲山の国立公園編入の経緯や特色を踏まえて今後の課題も検討することにし、戸田さんは眠っている資料の掘り起こしをされました。

また、神戸市・六甲山整備室長の松岡 達郎氏、神戸自然保護官事務所長の関 貴史氏にご参画いただき、座談会という試みも実施できました。



第2部は座談会

#### 六甲山は利用を重視する特異な国立公園

第1部では、昭和9年に日本最初の国立公園のひとつとして瀬戸内海が指定され、昭和31年に六甲地域が追加指定されたことが説明されました。この編入については、田村 剛博士の「六甲山観光計画」、当時の宮崎 辰雄市長の「国立公園に指定されて規制が多くなった」と反省する回顧録が紹介されました。六甲山が編入された実情がうかがえました。

続いて、国立公園のクイズをもとに、国立公園の公園計画、土地利用や植生変遷、六甲山の特色を解説されました。六甲山の活用では、「健康づくり」への関心が紹介されました。

第2部の冒頭で、松岡さんが「六甲山森林整備戦略」を要約して解説されました。六甲山を「都市山」と位置づけて、森の手入れ＝木を伐ること、森林の機能、公益機能、災害防

主催：六甲山を活用する会

協力：兵庫県立人と自然の博物館

後援：兵庫県神戸県民局、灘区役所、神戸市教育委員会

止機能など多岐にわたって説明されました。「人の手による荒廃」を踏まえて、手入れから「豊かな自然」も復元することを強調されました。

関さんは、原生的な自然が残っているという国立公園のイメージに対して、六甲山は景観とレクリエーション機能の2つのうち利用に重点があり、他の国立公園よりも規制が緩やかだと説明されました。

座談会では山の上が賑わった頃の体験談や、住民が減少した現状を懸念する報告もされました。六甲山が寂れた原因については、保養所の撤退の影響が大きいと指摘されました。これからのについては、行政の役割や努力に加えて、六甲山を地域の共有財産として市民と一緒に取り組むことが話題になりました。戸田さんは「市民がモデルをつくるのが大事だ」と締めくくられました。

#### 六甲山の現況と課題に市民の関心を高めたい

「六甲山は誰のものですか？」という問いに、「みんなのものです」という確認をしました。正面から本格的に六甲山について語り、関わる人が増えることを期待します。

※詳しくは、1・2ページをお読みください。

#### 参加の感想 釜尾 拓也 さん

私にとって六甲山は都市の中に浮かぶ緑の島という印象でした。日本を代表する傑出した自然の風景地とまではいかななくても国立公園として保護されることは素直に嬉しいと感じていました。

しかし、多くの人が保護よりも今まで通り利用できることを重視していることはとても印象的でした。六甲山は私たちにとって身近な自然であるからこそ、利用し続けることが六甲山を良い姿のまま保つことにつながるのではないかと思います。

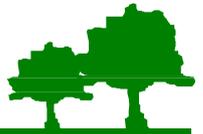


#### 【助成金をいただいている機関】

兵庫県緑化推進協会、花王・みんなの森づくり活動助成、阪急阪神 未来のゆめ・まち基金、自然保護ボランティアファンド



# 第115回テーマ：国立公園六甲山地区の特色とこれから



## 第115回市民セミナーの流れ

### 市民セミナー

1. あいさつ：10:00~10:10
2. 野外観察：10:10~12:00
3. 講演：13:00~14:20
4. 交流会：14:30~15:30

### 第1部：講演

- 国立公園指定の背景と経緯
- 自然公園としての特色
- 六甲山系の環境保全および活用の在り方について

第2部：座談会：(戸田、松岡、関)

### 瀬戸内海国立公園 (六甲地域)



## 講演の挨拶 (戸田 耿介さん)

私が六甲山に関わったのは昭和50年代、30年前で、センターの階段左手に植えたケヤキも大木になりました。建物は昭和50年オープンですが、オイルショックで予算が増やせず、苦労しました。



戸田さん

## 講演内容

### <第1部：講演>

## 1. 国立公園指定の背景と経緯

### ■戦前までの六甲山開発

注目するのは、昭和2年に阪神電鉄が有野町から約250ヘクタールの土地を買収したことだ。ドライブウェイやロープウェイなどが整備され、別荘や保養所が溢れて、昭和10年代に観光ブームが訪れた。戦争で市街地が空襲に遭うなど、開発の火は消えた。明治の緑化から始まり、観光地として脚光を浴びてずいぶん利用された。

### ■瀬戸内海国立公園に編入

昭和9年(1934)に瀬戸内海が日本で最初の国立公園に指定された。1府10県にまたがる海の公園で、多島海景観と人の営みと融合した人文景観を特色としている。

昭和31年(1956)に六甲山地域(6,788ha)が追加指定された。戦後の復興期になぜ六甲山が指定されたのか疑問を持った。日本を代表するほどの自然の価値とは思えず、編入の裏づけ資料を探した。

### ■根拠資料は「六甲山観光計画」

昭和30年(1955)に「六甲国立公園指定促進連盟」が作成した資料の中に、田村 剛博士の「六甲山観光計画」がある。国立公園を指定する選考委員会の委員長をされていた。この方に頼んで書いてもらったようだ。その資料で六甲山を評価している。

自然景観としては、植生面において見るべきものが少ない。山上より四周の展望は頗る雄大で、全国に比べるものがなく…。人口稠密な阪神地方に介在する六甲山は、簡易に半日から一日の行楽に適する点で、全国に類のない利用度の高い行楽地であり…。その利用方法は頗る多角的である。などと結論づけている。これでパスしたみたいだ。

一方、当時の宮崎 辰雄市長は回顧録で、「環境

庁の取り締まり事項が多くなり、利用の仕事ができにくくなった」と反省しておられる。ここは、利用することを目的に指定された公園だと改めて確認できた。

## 2. 自然公園としての特色

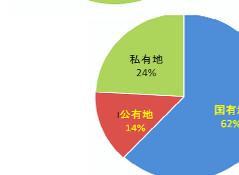
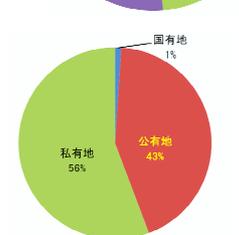
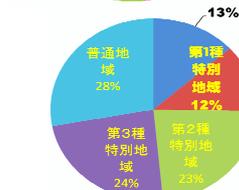
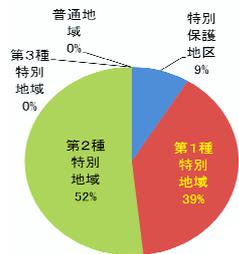
### ■自然公園計画

国立公園は景観や自然を保護する上で土地区分をしている。一番厳しいのが特別保護地区で現状維持が原則。六甲山では、西の再度山から摩耶山辺り、東は最高峰の北側と南側など。次は第1種特別地域で保護優先、摩耶山の下の方などに結構ある。第2種と3種はどちらかという利用、林業ができるかどうかで決まる。第2種地域はいろんな調整を行う。第3種地域は農林業はフリー。普通地域というのは六甲山にはない。

### ■土地所有状況

六甲山で特徴的なのは土地所有状況で、国有地は1% (震災後5%) しかない。それも国有林と防災緑地で、公有地はほとんどが神戸市。半分以上が私有地になっている。全国で見ると、北海道などの国立公園では国有地が多く、私有地・公有地は4分の1くらいだ。六甲山は私有地が多く、国立公園の規制は難しい。元々、観光的に開発された場所で、後から規制を被せていることも難しい理由の1つ。 上：六甲地域 / 下：全国 (平成6年3月現在)

六甲山地区の地種区分別面積割合



## 3. 六甲山系の環境保全および活用の在り方

### ■土地利用と植生の遷移

昔は奥山、弥生時代くらいまでは原生林であった。平安時代からどんどん人が使い出し、山は燃料として使われた。江戸時代の終わりから明治の始めにかけては、ほとんど禿げ山になった。

明治の中頃から、災害防止とか水源涵養のために植林が始まった。特に昭和に入ってから緑が深まった。

服部 保さんの資料にあるように、植生は江戸時代から変わってきて、現在では山の上の方はコナラ、尾根筋はアカマツ、下の方は常緑樹に変わっている。いずれは、下の方はカシなどの常緑樹林、上の方はコナ

ラなどの夏緑林に変わると言われている。

### ■健康づくりに関心

震災の年、毎日登山の人を対象に調査をした。目的を問うと26%が心身のリフレッシュ、健康に良いというのが47%だった。六甲山はどんな山かを訊ねたら、健康づくりで半数近く、次が景観、災害防止がベストスリーだった。

## 〈第2部：座談会〉

### 1. 「六甲山森林整備戦略」の大筋(松岡 達郎)

私のところは基本的に森林の手入れ、観光の話も含めて考えている。六甲山系は、表六甲だけでなく、北側も住宅開発され、市街地に囲まれている山なので都市山だ。

人の手による荒廃：人間が樹木を過剰に収奪して禿げ山になったのが六甲山だ。

1900年代に治山治水三法が制定されて緑化が進んだ。人間が手を加えることによって、六甲山は豊かな森林に蘇った。100年ばかりで植生が回復したので片寄りも大きい。土壌はそんなに回復していない。それを放つたらかしのできない。

人が手を加えた方が望ましい景観が作れ、多様な生物の育成区域ができるのが可能な面もある。六甲山には種々の法律があり、木を伐ることに制約があるので、環境省とも話して適切にやっていきたい。

### 2. 環境省の六甲山の見方(関 貴史)

国立公園という雄大な景色や、昔からあった自然がそのまま残っている所がイメージされる。六甲山は景色が美しいのと、都市圏に近くて山上のレクリエーション機能が優れているので指定された。保護と利用では、六甲山は利用



の方はかなり重点を置かれ、全国的にもかなり特異な場所だ。残っている自然も天然のものはほぼなく、スギ林やマツ林など単一の植生が見られる。これに手を加えると元の自然の状態に戻すことにもなる。

昔からレジャー施設があり、人が利用している場所なので、自然のイメージや風景を壊さない程度でやることなら、むしろ進めていくべきだと思う。

## 3. 座談会の話題

### ●人口が減って街が成り立たなくなっている

六甲摩耶鉄道社長の上田さんの『『山上に居る者』の視点から見た六甲山』を引用して問題提起された。

### ●山上の盆踊りも最近途絶えた

山上で育った村上さんが、70年にわたって山が賑わい、5年前から盆踊りが途絶えたと体験を話された。

### ●保養所の閉鎖の影響が大きい

山の人口は最盛期で1,000名程度。保養所の閉鎖が進んで、環境を維持する機能も弱まっている。

### ●市民の力で環境活用する事例もある

活用する会から「まちっ子の森」での活動や、自然歩道の整備活動と、市民が担う難しさも紹介した。

### ●ドライブウェイ沿いの樹木が枯れていく

松井さんが、ドライブウェイ沿いの樹木にカズラが巻きつき、樹木が枯れる心配と対策の必要を訴えた。

## まとめ(戸田さん)

自然公園という制度はあるのですが、法律が時代遅れになれば変えていかないといけないだろう。六甲山上の住民だけでは手に負えなくなっている。市街地のわれわれが恩恵だけを受けているのではいけない。何か新しい枠組みを考えたい。利用もし、手を動かすということで皆さんのご支援を期待します。

## 事務局より

市民セミナーで、一番やりたかったテーマです。情報や資料もいっぱい提供しました。すぐには結論は出ない問題ですが、それだけに議論を続けていく重要さを共有できたと思います。

### ◆参考・配布資料など

- ・パワーポイント：「国立公園六甲山地区の特色とこれから」
- ・配布資料：「国立公園六甲山地域の成り立ちと今後の課題」「自然公園制度の概要」、「瀬戸内海国立公園」（地図、環境省）、「六甲山森林整備戦略の今後の展開」「六甲山森林整備戦略」（神戸市・六甲山整備室）、「『山上に居る者』の視点から見た六甲山」（『都市政策』上田均氏）。
- ・参考資料：市民セミナー報告書 No. 40、No. 49 など

戸田 耿介：とだ こうすけ

NPO法人子ども環境活動支援協会・監事  
 〒673-0756 三木市口吉川町南畑 96  
 電話：0794-60-1434 FAX：0794-60-1434  
 E-mail：koharimu@nifty.com

### ◆参加者の声

- ・国立公園指定の背景と経緯が良くわかりました。
- ・中学生の頃は交通ラッシュ、今は人も車も少ない。

### ◆参加者：52名(50音順・敬称略)

赤司 宏子 天野 征一郎 石井 勇 泉 美代子 伊谷 正弘・幸子 井上 幸雄 岩村 陽佐 大上 政雄 大里 翠 岡田 照代 岡本 正美 岡谷 恒雄 釜尾 拓也 川崎 信行 木村 富子 久保 洋明 嶋崎 勝男 関 貴史 高坂 裕 高田 一 多賀 千枝美 瀧本 武司 武内 宏 竹田 美代枝 竹野 智明 辻 和雄 徳見 健一 戸田 耿介 堂馬 英二 中尾 啓子 中川 佐代子・周平 奈島 伴治 難波 美智子 藤岡 弘充 眞崎 光 松井 光利 前田 武廣 松岡 達郎 水越 幸代・紘之 宮島 久美子 村上 定広 安田 夫市 柳田 千恵子 柳本 英里 山下 博邦 山本 繁徳 横山 和子 吉岡 啓次 与茂田 正